

質問力・聞く力

校長 新妻 茂

1学期の期末考査前に割と多くの生徒が担当教員をつかまえて、図書室で質問したり、勉強する姿がありました。我々教員は、生徒に「分からないところがあったら、質問しにきてください」と、言いがちですが、考えてみると、“分からないところ”があるかどうかということは、勉強してみないと分かりません。勉強しなければ、どこが分かってどこが分からないのかが分かりません。時々、「どこが分からないの？」と聞くと逡巡もしないで、「全部！」と答える生徒がいますが、これが一番困ります。勉強するからいろいろな疑問がわいてきて質問に至るのでしょうか。

私が若いころ先輩教員に「人の話しは、何か質問してやろうという気概で聞くことが礼儀だ」と指導されたことがあります。こうするといろいろな講演や講義を前のめりで聞くことができ、眠くなりません。

通常国会が6月18日に閉幕しました。政治的なことをとやかく言うつもりは全くありませんが、菅官房長官の記者会見を何度か見ていたら、官房長官に執拗に食い下がって質問をしている女性記者がいました。最近見かけなくなった骨のある女性記者だなあと思いましたが、結局、この女性記者の執拗な質問がきっかけとなって、松野文部科学大臣はいわゆる“追加調査”を行うと発表せざるを得なくなりました。ニュースでは、この女性記者の“質問力”とか“聞く力”が話題となっています。

彼女の名前は、望月衣塑子（いそこ）さんと言います。東京新聞社会部の記者ですが、遊軍記者（緊急時等に迅速に取材に当たる記者）としていわゆる「加計問題」の取材に当たっています。官房長官定例記者会見には通常官邸記者クラブの記者が出席するので、官房長官もそれほど追及されることはないのですが、このところは望月さんが出席していて、踏み込んだ質問をしているので、「望月劇場」などとも言われています。彼女は「武器輸出と日本企業」という本も出しているのもともと取材力のある記者なのでしょう。質問するためには自分の足で取材をしなければならないし、それなりの勉強もしなければならないし、多くの失敗も経験しているのでしょうか。

阿川佐和子さんが「聞く力」という本を出していますが、表紙の裏書に「インタビューが苦手だったアガワが、1000人近い出会い、30回以上のお見合いで掴んだコミュニケーション術を初めて披露する」と書いてありました。相手の「心をひらく35のヒント」ということでまとめられていますが、いろいろなメディアでいろいろな人と対談したりインタビューをしている阿川さんが、その裏で数多くの失敗をして、その失敗から多くのことを学んでいるということが分かります。

考えてみれば、生徒が教員に質問するにも、みんなの前で質問するにも、官房長官に質問するにも、失敗を恐れない勇気が必要なのではないでしょうか。「こんな質問して大丈夫かな」と、少なからず躊躇することがありませんか。「質問力」・「聞く力」と言っても、相手に対して自分の心がひらいているかどうかは鍵になるのだと思います。

7. 8月の主な行事

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 7月 | 16日(日) バレー部遠征出発 |
| 2日(日) 遠泳大会 | 20日(木) 終業式 サッカー部遠征出発 |
| 3日(月) 学校公開(始) | 21日(金) バレー部島しょ大会 |
| 4日(火) 学習面談(始) | 22日(土) サッカー部島しょ大会 |
| 5日(水) 食育 芝生の日 | 28日(金) バドミントン部都大会 |
| 6日(木) 都学力調査(2年) | 8月 |
| 7日(金) 学校公開(終) | 29日(火) 夏季補習授業(始) |
| 10日(月) 避難訓練 | 31日(木) 夏季補習授業(終) |
| 15日(土) 壮行会 大掃除 セーフティ教室 | ※ 9月1日(金) 2学期始業式 |

母島移動教室

1年担当

母島移動教室を通しての学習は、事前学習から11月の学習発表会まで、1つのテーマを探究するという目的で取り組んでいます。まず始めに、自分が選んだテーマの中から、「なぜ？」と疑問に思うことを探しました。次に、疑問に思ったことを探究課題として設定し、探究課題に関することを書籍やインターネットで調べて、探究レポートにまとめました。さらに、母島での検証課題も設定し、仮説と検証方法も考えてから母島移動教室を迎えました。

移動教室当日は、朝早くにもかかわらず、たくさんの保護者の方に見送られ、定刻通りに出発することが出来ました。船酔いを心配する生徒もいましたが、大きな揺れもなく、ははじ丸は無事に母島沖港に到着しました。

荷物を宿舎のラ・メープに預け、さっそく各班でのクイズラリーを行いました。雨の中で行いましたが、クイズに答えながら時間通りに着くように班で役割分担をして回ることができました。その後、母島小中学校では母島中の生徒とともに昼食を囲み、学校を案内してもらうなど、温かい歓迎を受けました。

午後は畜産指導所、営農研修所、農家を見学し、母島の産業について学習を深めました。各訪問先で、検証課題を検証するため、インタビューをしたり、動画撮影を行ったり積極的に学ぶことができました。夜は、母島中学校の生徒が企画してくれたナイトハイクを行いました。雨天のため、校舎内での実施でしたが、母島中学校の生徒がゾンビに扮し、驚かせてくれたり、素敵な歌をプレゼントしてくれたり、とても盛り上がりました。

二日目は、残念ながら前日の雨により石門に入山することができませんでした。2班に分かれて、都レンジャーの宮川さんのレクチャーと、ガイドの早川さんに石門の入り口・舟木山周辺の案内をしていただきました。宮川さんには、母島のDVDを見せていただきながら母島の動植物についてのレクチャーをしていただきました。早川さんには、外来種のアカギの繁殖力の強さを中心に教えていただきました。

三日目は、カカオを栽培している農家の見学にいきました。東京で唯一こっだけで栽培しているカカオを間近でみる、とても貴重な経験をしました。その後、雨天のため予定を変更して、宮川さん・茂木さんに母島で疑問に感じたことを質問して解説していただきました。

母島を出港するときには、母島の方々へ感謝の気持ちを込めて、母島の宝物という歌と「We love 母島 See you again!」という言葉を一人一文字画用紙に書いてメッセージを届けました。

三日間雨が続き、予定の変更が多々ありましたが、その中でも協力しあって過ごすことができました。また、全員がそれぞれの検証課題の検証に取り組むことができました。学習の成果を学習発表会で伝えられるように、学習を深めていきたいと思います。

今回、大きな怪我無く母島移動教室が無事にできたことは、ご協力頂いた母島の皆様、保護者の皆様のお力添えのおかげです。本当にありがとうございました。

救命救急講習

保健体育科

6月2日金曜日、全学年が体育の授業で救命救急講習を実施しました。今回のテーマは「実践力を身に付ける」というものでした。知識だけでなく、実際にそういった場に出くわした時、いざという時に動ける行動力と勇気を持って欲しいという事です。自分の身近にいる人がそのような状況に陥ったらどうしますか？自分の大切な人だったらどうしますか？想像してみてください。そして、自分がその様な場に出くわした時は勇気を持って行動を起こせる人になってください。その人は誰かにとって大切な人なのですから。



地域学校保健委員会

養護教諭

6月8日(木)に地域学校保健委員会を開催しました。講師をお招きし、「楽しく快適な海の過ごし方」についてご講演いただきました。当日は、教職員だけでなく、多くの保護者や地域の方々にもご出席いただきました。ありがとうございます。

講演では、父島の海の特徴と島の子ども達の遊び方の実態に合わせ、海に入る前に注意すべき情報、水中生物によるケガの特徴、海で起こりやすい事故や病気、それらの予防法について説明がありました。また、海に行く

時は、救急セットと温かい飲み物、タオル(低体温予防)を持っていくと良いということや、空のペットボトルとゴミ袋があると、万が一溺れた時に浮き具として活用できるなど、簡単にできるケガや事故の備えも教えていただきました。

ちょうど青灯台のノロ落としやプール清掃とも時期が重なり、タイムリーな講演となりました。

これから本格的に海に入るシーズンとなります。子どもたちが事故やケガのないよう、地域の皆様、保護者の皆様のご協力をいただきながら、学校で支援・指導していきたいと思っております。

ノロ落とし

副校長

6月11日(日)、晴天に恵まれ、予定通り青灯付近のノロ落としが実施されました。中学生は保護者や地域の皆さん、小学生、教員とひとつになってノロを落としました。6月16日(金)にはダイバーの皆さんによりブイ・フロートの設置が行われました。また、今年は工事区域もありフェンス等で安全対策を行いました。ご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。今、生徒達が泳いだり、飛び込んだりしている様子を見ると、地域に支えられ成長していくのが父島の子供なのだと思います。今年も感謝の気持ちを忘れず、十分に気をつけて遊泳してください。



プール開き

保健体育科

6月12日(月)の3,4時間目に毎年恒例のプール清掃が実施されました。天候にも恵まれ、大きな事故もなく無事に終わることができました。プール槽は生徒達のおかげで見事に綺麗な姿を取り戻し、満水になった水面がキラキラと輝いています。今年は水不足の影響を受け、開催が延期になっていましたがこれで小中ともにプールの活動を行うことができます。

自分たちが学ぶ場を、自分たちで清掃することは、学校教育の一環としても大きな意味を持っています。その意義を理解し、一所懸命取り組んでくれた生徒達が、授業を通して事故無く安全に学んでいけることを願っています。



※ 現在プールは漏水が発覚し使用できない状態で、修理を行っています。プール指導開始は決まり次第ご連絡いたします。

遠泳大会

副校長

7月2日(日)には遠泳大会が実施されました。ねらいは次のとおりです。「①自分の泳力の一層の向上を図る。②集団遠泳を通じて、協力・励まし合いの気持ちを養う。③健康・安全に留意しながら完泳できるように努力する。」です。

“1時間かけて1kmをみんなで泳ぐ”ことを目標として海練習を行いました。

本番前、今一度心構えの確認をしてスタートを待ちました。予定通りのスタート。

入水した生徒は「さあ、いくぞ」という気持ちで次々と海中へ。遠泳中、隊列の維持はけっこう難しく、先輩と後輩でバディを組むことでバランスを取り合い励まし合いながらゴールを目指しました。

海が穏やかなせいもあり序盤からは隊列の間隔が狭めになってしまいました。元々泳力のある島っ子は風の中では余裕を持って泳いでいましたので次第に前後左右の間隔を意識し、列を整えながら泳いでいました。3年生から始まった「えんやこーらー」の掛け声は、生徒たちにとって大きな力となったことでしょうか。途中、小学校時代のかげ声もかかったのですが、何事もないように元気に発声し終始リラックスした雰囲気の中で泳ぐことができました。ひとりの脱落者もなく全員完泳!“1時間かけて1kmを泳ぐ”という目標も達成。澄み切った青い空、透き通った海。すばらしい遠泳大会となりました。生徒は、行事を終えた達成感を味わうことができました。

お忙しい中遠泳大会にご参加・ご協力くださいました多くの保護者の方々、海上自衛隊、小笠原警察、地域の方々はこの場をかりてお礼申し上げます。伴泳、サーフボード、ボディボードなど協力ありがとうございました。

